

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度: 令和5年度)

施設 の 名 称	宮城県ライフル射撃場
指 定 管 理 者 の 名 称	宮城県ライフル射撃協会
施 設 所 管 部 課 (室)	企画部スポーツ振興課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成23年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理者	宮城県ライフル射撃協会	
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理者	宮城県ライフル射撃協会	
平成31年 4月 ~ 令和6年 3月	指定管理者	宮城県ライフル射撃協会	

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	宮城県ライフル射撃協会
	所在地	宮城郡利府町加瀬字南野中沢40-51
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和6年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県ライフル射撃場	
所 在 地	石巻市沢田字金山51-1	
設 置 年 月	昭和57年 8月	
根 拠 条 例 等	ライフル射撃場条例	
設 置 目 的	スポーツの普及振興を図り、もって県民の心身の健全な発達と福祉の増進に資するため	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	12,174.91㎡
	構 造	エアーライフル射撃場 鉄骨造平屋建(覆道式) スモールボアライフル射撃場 鉄骨造平屋建(バツフル式)
内 容	<エアーライフル射撃場>26射座(電子12)、会議室兼ビームライフル射場(14射座)、事務室、更衣室、選手控室、銃器修理室、銃器保管室、審査室、温水シャワー室 <スモールボアライフル射撃場>26射座、事務室、更衣室、選手控室、銃器手入室、審査室	
開 館 (所) 日	休業日(平日、12月29日から1月3日まで)を除く土日祝日	
開 館 (所) 時 間	午前9時 ~ 午後5時	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 施設全体の管理運営業務 2 施設の使用許可及び使用許可の取消し又は停止に関する業務 3 使用料に係る各種申請書の受付に関する業務 4 使用料の徴収に関する業務 5 施設・設備、物品及び敷地の維持管理業務	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	施設利用料

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
開館(所)日数	120 日	126 日	118 日	98.3%	93.7%
延べ利用者数	2,800 人	2,875 人	3,152 人	112.6%	109.6%

(2) 延べ利用者数の内訳					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
スモールホﾞアライフル	60 人	90 人	178 人	296.7%	197.8%
エア-ライフル	700 人	762 人	754 人	107.7%	99.0%
ビームライフル・ビームピストル	1,200 人	1,456 人	1,510 人	125.8%	103.7%
温水シャワー	10 人	0 人	0 人	0.0%	-
冷暖房施設等	800 人	567 人	710 人	88.8%	125.2%
会議室	40 人	0 人	0 人	0.0%	-
合 計	2,810 人	2,875 人	3,152 人	112.2%	109.6%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入 (単位:千円、%)					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
県指定管理料	5,842	5,842	5,842	100.0%	100.0%
利用料金収入	1,800	2,072	2,400	133.3%	115.8%
その他	300	407	780	260.0%	191.6%
収入計 (a)	7,942	8,321	9,022	113.6%	108.4%

(2) 支出					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
人件費	2,172	2,000	2,060	94.8%	103.0%
施設管理費	5,110	5,322	4,955	97.0%	93.1%
事業運営費	505	973	1,999	395.8%	205.4%
その他		0		-	-
支出計 (b)	7,787	8,295	9,014	115.8%	108.7%

(3) 収支					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
収 支 (c)=(a)-(b)	155	26	8	5.2%	30.8%
前期繰越収支差額	26		26	100.0%	-
次期繰越収支差額	7		7	100.0%	-

5-2. 自主事業収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(単位:千円、%)					
項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和5年度) (A)	前 年 度 (令和4年度) (B)	評価対象年度 (令和5年度) (C)		
(1) 収入					
事業費	17	0	42	247.1%	-
射撃講習収入等	30	37	0	0.0%	0.0%
銃保管料雑費(寄付金含む)	18	0	14	77.8%	-
収入計 (a)	65	37	56	86.2%	151.4%
(2) 支出					
人件費	15	15	0	0.0%	0.0%
施設管理費	0	0	0	-	-
事業運営費	20	0	19	95.0%	-
その他	0	0	0	-	-
支出計 (b)	35	15	19	54.3%	126.7%
(3) 収支					
収 支 (c)=(a)-(b)	30	22	37		
前期繰越収支差額	0	0			
次期繰越収支差額	30		37		

6. 評価対象年度(令和5年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	今年度も通常の管理運営体制については問題ないと思われる。新年度は更に利用者の感染予防と安全確保の向上を目指した管理体制を取る。		今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、大会開催等も通常に戻ったが、なお感染予防に努めた射場管理運営を行った。		A	事業計画に基づき、適切な管理運営を行ったと認められる。大会開催時等には、管理者のほか、ライフル射撃協会の会員が運営をサポートし、円滑に大会運営を行っている。	A
人員体制	正規	1人	非正規	8人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	例年通り施設・設備の点検・法定点検等を実施し維持管理には万全を図っている。しかし、建設から20年近い年月が経ち、施設の老朽化が見られるようになった。		施設・設備の維持管理について、委託業者による定期的な点検に加え、自主点検も行っている。また、簡単な修理等、可能なものは自ラ行い、経費削減に努めている。		A	日常的な保守点検はもとより、施設・設備等の不具合の際には、県との情報共有が図られている。また、可能な限り直営で施設の維持管理を行うなど、経費削減に努めている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	①段級記録会の実施 ②東北ライフル射撃選手権大会 ③全日本ライフル射撃選手権大会(BR・BP) ④東日本ライフル射撃選手権大会		本年度は大会等も通常開催となり、大幅な利用者増に繋がった。		A	日本ライフル射撃協会と連携を図り積極的に全国規模の大会を誘致し、施設の有効利用、競技力向上に努めている。	S
④自主事業の実施	今年度は教習射撃の受講者はなかった。		今年度は教習射撃受講者が無く、やはり全国的に射撃人口の減少が影響している。		B	令和5年度は教習射撃の受講がなかったことから、他の自主事業展開なども含め、工夫・改善が求められる。	B
⑤利用者サービスの向上	① 教習射撃講習の実施 ② 空気銃の保管業務		今年度は教習射撃受講者が無く、半面中・高校生の空気銃所持が増え、保管依頼が増加した。		A	利用者からの要望・意見に対応し、利用者サービス及び利用者満足度の向上を図っている。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	本年度もアンケートを実施して回答を得ているが、特に大きな施設上の問題は出ていない。		今後とも大会時にアンケートを求めて行くようにする。		B	大会で利用者アンケートを実施することによって、県内外の利用者からの意見要望を効率的に徴取している。	A
⑦安全対策	利用者の安全確保のため、見回りや利用者への声掛け、設備等の点検を行っている。また、災害発生時には、射撃場を一時避難場所として利用できるよう、食糧、水、発電機などを備えている。さらには、連絡手段としての衛星電話も備えており、万全を期している。		災害時のみならず、通常時の利用者の安全については常時射撃場内外を点検しており、安全対策は講じられている。		A	施設、設備の自主点検を行うとともに、必要な修繕等についても適切に実施している。また、災害時の連絡体制を整え、食糧の備蓄についても配慮されている。	A
⑧県民の平等利用	特に利用拒否等はない。		県民の平等利用については、問題は無い。		A	銃刀法により利用者が限定(ビームライフルは除く)されているが、施設の利用に当たっては、適切に運用されている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	個人情報の入っているデータは射場には普段置かないよう配慮している。また、データを使用するパソコンにも暗証番号を使い勝手に使用出来ないよう配慮している。	個人情報保護規程に基づき、十分に配慮している。	A	個人情報保護規程を設置し、適切な管理に努めている。	A
⑩利用実績	今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、大会等も通常に戻り、利用者増に繋がった。	今年度は利用者も増え、利用増になり、収入面でも増加した。	A	新型コロナウイルス感染症の5類移行、指定管理者から日本ライフル射撃協会への働きかけ、積極的な大会誘致によって、前年度よりも利用者が増加している。	S
⑪収支実績	① 平成31年度 2,325,340円 ② 令和2年度 1,312,190円 ③ 令和3年度 1,268,440円 ④ 令和4年度 2,72,740円 ⑤ 令和5年度 2,4000,000円	今年度はコロナ感染も5類に変更になり、各種大会も感染予防に努め開催された。そのため利用者増・利用料収入増となった。しかし今年度の各種大会時の参加者数は減少に転じた。	A	新型コロナウイルス感染症の5類移行、指定管理者から日本ライフル射撃協会への働きかけ、積極的な大会誘致によって、前年度よりも利用料収入が増加している。	S
⑫その他の取組	今年度は射場自体がすでに20数年経過し修理更新等を行わなければならない、指定管理者自体が出来ることは限定される。	その他の取り組みとしては50m射場の芝刈り業務が大変になり、自分たちで人工芝に張り替える作業を行った。又、10m・50mとも電子標的になったので、利用料金の改正を行うべきである。	A	可能な限り直営で施設の維持管理を行うなど、経費削減に努めている。電子標的化に伴う利用料金の改定については、条例改正を要することから、他の県有施設、他県の射撃場とも比較の上、改定を検討していく。	A
総合評価		今年度も総合的に適正な管理運営を行ったと思っている。	A	県のライフル射撃競技の拠点施設の管理者として、適正な管理運営を行っている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	令和5年度の電気利用料金は通常より少なく抑えられたが、令和6年度から大幅に電気料金が上がり、電力会社と交渉を行ったものの、大幅な料金の上昇は避けられない。対策としては射場内の蛍光灯のLEDへの変更、屋根屋上に太陽光発電を設置し、射場の電力を賄う等が必要ではないかと思います。	施設の改修・維持管理については、5年間の維持管理計画に基づき更新を実施しているが、更新にあたっては今後とも、サービスの向上及びコスト削減を念頭に置くとともに長期的な観点から執行する必要がある。原油高騰などの事案に対しては、社会情勢等を注視し、必要に応じて支援継続を図っていく。